

The Kamenori Community かめのりコミュニティ

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

 公益財団法人
かめのり財団
Kamenori The Kamenori Foundation

かめのり地球青少年サミット 香港中文大学にて開催



2011年11月 No.8

今号の内容

- ◇かめのり大学院留学 アジア奨学生
夏の研修交流会
- ◇5周年記念 かめのり地球青少年サミット
- ◇第3回中学生交流プログラム
笑顔であいさつ スラマップギ (おはよう)
- ◇国際交流事業助成
- ◇奨学生のしょうかい (高校生)
- ◇講演会
徳島県立名西高等学校で開催

かめのり大学院留学 アジア奨学生

夏の研修交流会

9月初めに大学院奨学生が集まり、山梨県小淵沢にて夏の研修交流会を行いました。

それぞれの研究内容や進捗状況の発表では、法律、文化財科学、経営と研究分野が異なるため、みんなが理解しやすいように言葉を選びながら話し、またお互いの発表に熱心に耳を傾けていました。研究生活からほんのひと時離れ、自然の中で楽しんでほしいとの目的で計画した森林散歩は台風のため中止となり残念でしたが、2日目には日本文化体験としてそば打ちを行いました。初めての体験に戸惑いながらもみんなが一生懸命打ったおそば

を昼食におしくいただきました。普段会う機会の少ない奨学生同士が交流を深め、充実した2日間を過ごしました。また、名古屋大学大学院に在籍していた Nuth Sotheavy

(ヌット ソテアヴィ)さんが、本年9月、2年間の修士課程を終え、修了式を迎えました。10月にカンボジアに帰国し、今度は同大学院の博士課程への進学を目指しています。



そば打ち体験しました！



Nuthさん修了式・ご家族と一緒に

かめのりコミュニティ

5周年記念 かめのり地球青少年サミット (Kamenori Earth Youth Summit)

かめのり地球青少年サミット (KEYS) は、かめのり財団5周年の記念事業として、8月20日から8日間、香港中文大学ユニテッドカレッジにて開催されました。アジアの8カ国・地域(インド、韓国、タイ、中国、日本、フィリピン、ベトナム、香港)から、28名の大学生が参加しました。今年のKEYSのテーマである“Survival of Humankind (人類の生存)”についての調査研究・発表に加え、基調講演や参加者同士の交流も行われました。以下、ハイライトをご紹介します。



横田洋三先生

ジェームズ・マーリース先生

基調講演

KEYSのテーマである“Survival of Humankind”について、国際レベルで活躍されるお二人の先生方から専門分野に即した基調講演を頂きました。最初に香港中文大学教授でノーベル経済学賞受賞者のジェームズ・マーリース(Sir James A. Mirrlees)先生から「貧困の撲滅」についてご講演頂きました。先生は生産性が向上して豊かになったはずの21世紀において、未だ貧困が撲滅されない現状を指摘しました。その上で、貧困とは何か、貧困者とは誰なのかについて改めて考察し、富の再分配の必要性を訴えました。現代の貧困を考える際には、単に所得の低さととどまらず、教育・医療といった数値化が困難な要素を含めるべきであるというご指摘は、参加者を大いに啓発しました。

次に人権教育啓発推進センター長の横田洋三先生から「人権の普遍性について」という題材でご講演頂きました。人権の国際法化の歴史や、また国際連合でのご自身の体験などを織り交ぜて、地域性を越えて、人権が普遍的であることを述べました。同時に、人権概念の発達にアジアの視点をより反映させる必要性に言及され、今後より多くのアジアの若者が国際人権法の専門家として活躍することを期待するというメッセージが送られました。

2つの全く異なるアプローチから、人類の生存の上で重要な課題についてご講演を頂き、白熱した質疑応答がなされました。

共同研究

アジアの未来における“Survival of Humankind”を主題として、各国・地域から1人ずつ選び4つのグループを構成し、共同調査研究を行いました。経済グループは「所得格差の是正」、教育グループは「教育機会の不平等と資源配分」、環境グループは「原子力、放射能とその安全性」、政治グループは「民主主義と選挙過程」をそれぞれの題材としました。香港中文大学の教授陣からご指導を受けながら、長時間に渡り、熱心に調査研究が行われました。



研究発表の指導

研究発表会

7日目に、調査研究の成果発表会が開催されました。隈丸優次在香港日本国総領事や当財団創設者の康本健守評議員をはじめ、内外からゲストを迎える中で、4つの調査グループによる素晴らしい発表がありました。発表会の閉会式では、調査研究の指導教授から講評を頂き、最後に参加者一人ずつに修了証が授与されました。また、KEYS実行委員長として、K. P. Fung 教授(香港中文大学 United College 院長)、水戸考道教授(関西学院大学)にご尽力いただいたことが大きな成功につながったと強く感じました。



参加者全員 香港中文大学のキャンパスで



研究発表会

最後に

プログラムには他にも、香港島の観光、世界自然基金の海下湾海洋生物センターの訪問、香港上院議員の李卓人(Lee Cheuk-yan)氏・香港中文大学の黄偉豪(Wilson W.H. Wong)准教授によるご講義などが行われ、実り多い学習体験となりました。1週間という短い間でしたが、寝食をともにし、夜を徹して議論し、課題解決の考えを導きだし、発表するということから、各グループの中で絆が生まれました。

今後のアジアの発展を担う参加者たちからはかめのり財団、香港中文大学への謝意と、KEYSで培った学びと友情を育てていくという決意表明がされました。

報告：KEYS 実行委員 遠藤理恵



フェアウェルディナーにて

第3回中学生交流プログラム

笑顔であいさつ、スラムパギ（おはよう）

第3回を迎える中学生交流プログラムが本年10月3日～9日の1週間、マレーシア・クアラルンプールで、(社)国際フレンドシップ協会の実施により行われ、全国から5名の中学生が参加しました。



日本国大使館でのブリーフィング

参加者の出発前のマレーシアのイメージは「暑い」「自然がいっぱい」「食べ物おいしい」「異なる人種の国」でした。前日、10月2日の事前研修では、出発前でワクワクする一方、緊張気味の参加者でしたが、マレーシア事情や国際マナーとエチケットを学び、日本文化紹介の準備を通じて、山本伸団長のもと、結束を固め、元気に成田を出発。

2日目、日本国大使館を表敬訪問。佐藤参事官(広報文化部長)と木塚一等書記官にお話をいただき、質疑応答も活発に行われました。その後も王宮、国立モスク、博物館、ツインタワー、ピューター工場見学と充実した一日を送りました。3日目はマラッカ市内を見学後、滞在先に隣接するマーケットを視察し、買い物体験。皆、日本との物価の違いに驚いていました。

いよいよ5日目は、セランゴール州シャーラムの第9地区小・中学校(一貫校)に学校訪問。交流会式典は予定時間の2倍とマレーシア流にゆっくり時間が流れ、日本との違いを体験しました。日本文化紹介は、全員での合唱、合気道、書道など盛りだくさんで、中でも浴衣の着付けが大好評。校内では、皆が親切で笑顔で声をかけてくれ、マレーシアの遊び「コンカ」で交流しました。また見学した科学の授業



「コンカ」で遊びながら交流

は全て英語で、専門用語が多く使われ、参加者は同世代の英語のレベルの高さにびっくりすると同時に、刺激を受けました。その日の夕方からホームステイでマレー系の家庭を訪問し、歓待を受けました。家では、2時間に1度、受入家庭の生徒がどこかに行ってしまう不思議に思っていました。あとからイスラム教



学校訪問で自己紹介をしながら交流



学校訪問シャーラム第9地区小・中学校の皆さんと

右上/モスクの見学 右下/マレーシアの中学生に着付けを披露

国際交流事業助成

本年度は、右の事業への助成が決定しました。交付式ではIIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表、川北秀人氏による助成金を受けるにあたってのワークショップが行われました。



《一般公募》2011年度 助成事業一覧(敬称略)

Global Voices from Japan 実行委員会
Global Voices from Japan「留学生コラムコンテスト」

北東アジア学生ラウンドテーブル
北東アジア学生ラウンドテーブル2011

話してみよう韓国語東京中高生大会2012 実行委員会
話してみよう韓国語東京中高生大会2012

慶應義塾大学医学部 日中医学交流協会
災害医療及び伝統医学 学術交流プログラム

一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター
福島県南相馬市の中学生による国際交流事業

(特) アジア・コミュニティ・センター21
東日本大震災被災地へのアジア留学生ボランティア派遣事業

奨学生のしょうかい（高校生）

本年度もたくさんのアジアの高校生が異文化体験を始めました。

受入生のことば

【長期】アジア9ヶ国・地域から21名が来日
「富士山やお寺、神社を訪ねたい」
「茶道や華道を習い着物を着てみたい」



派遣生のことば

【短期】1ヶ月間、中国、韓国でそれぞれ5名が言葉や文化を学習
「身につけた中国語の力を伸ばし、自分の強みにしたい」
「世界へ目を向けるきっかけになる留学となった」
【長期】インドネシア、中国へ向けて3名が出発
「イスラム教に興味がある」
「中国の小説を原本で読めるようになりたい」



講演会

徳島県立名西高等学校で開催

10月に「異文化理解はなぜ必要かー日本の不思議を追っかけて30年ー」と題した王敏理事（法政大学教授）の講演会を徳島県立名西高等学校で行いました。全校生徒、教職員、約500名を対象に、王敏理事が来日してから日本の「もの・こと・ひと」について、中国との違いに不思議だと感じ調査した事柄を例に挙げながら、「好奇心を常に持って知りたいことを調べていくことが異文化理解には大切である」とメッセージが伝えられました。

なお、開催にあたってはAFS日本協会、榎原大阪事務所長のご協力をいただきました。



吉野校長先生へ王敏理事著書贈呈

奨学生のことば

体験レポートの中から、印象に残る文を紹介します。

留学生生活を振り返ると、「壁ばかりだったな」と感じます。これはもちろん良い意味です。なぜなら、それらは私を大きく成長させたし、日本で過ごしていたのであれば、全く考えもしなかったであろうことだったからです。そして、どんな時も初心と謙虚さを忘れずにいれば、またその時を楽しもうと思えば、あとは「何とかなるさ」でいいのだと思います。これはホストファミリーのおばあちゃんが教えてくれました。この教えをはじめ、留学で学んださまざまなことを忘れず、帰国後も謙虚に行動していきたいと思えます。

2010年 中国へ留学 賀来 琳

今回、感じたことのひとつが、同年代の外国人は「すごい」ということです。出会った中国人たちは、勉強かスポーツに長けていて英語も流暢でした。将来のこともしっかり考えていてアメリカの大学に行きたいという人も多かったです。他国からの留学生も英語が話せ、なかには5ヶ国語も話す人もいて、さまざまな言語が話せることは、社会において武器になることに気が付きました。これから英語、中国語を勉強して、海外でも発言力のある人間になりたいと思えます。

2011年 中国へ短期留学 隈井 亮太

今後の予定

- 12月 【高校生長期】第6期生派遣生授与式
- 2012年
- 1月 5周年記念 かめのりフォーラム2012（第5回かめのり賞表彰式）開催
【高校生短期】第4期生韓国・中国から来日
- 1月～2月 【高校生長期】第5期生受入生帰国
- 2月 王敏理事講演会 福島県桜の聖母短期大学・生涯学習センターで実施

＜編集後記＞

9月の大学院生の夏の研修交流会は、台風の影響で列車の遅れと運休や予期せぬことが起こり、予定変更の連続でしたが、学生からより印象に残ったとの感想があり、また何より大きな事故なく学生皆が無事帰宅できたことに感謝。それぞれが将来に向け研究に動んでいる「今」は、幸せなかけがえない日々のひとつであると感じています。（菊地）

発行人 / 西田 浩子

編集 / 菊地 佐智子

デザイン / イワブチサトシ (BUTI design)

印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します！

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-5 共立麹町ビル 103

TEL : 03-3234-1694 FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp URL : http://www.kamenori.jp/